

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：2020年 1月 31日

事業所名：児童デイサービスたくみ

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	自由活動(あそび)の部屋と机上課題の部屋を別に用意。また、作業療法士による訓練室も別に用意している。また、クールダウンが必要なときのスペースも設けている。	はい89.2%(66名) どちらともいえない8.1%(6名) いいえ1.4%(1名) わからない1.4%(1名)	これまで通り、実施していく。
	2 職員の適切な配置	事務職員を除く、直接支援のすべての職員を有資格職で配置している。	はい97.3%(72名) わからない2.7%(2名)	これまで通り、有資格者を配置し、専門性をもって実施していく。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	室内は、バリアフリーになっており、構造化された環境を設けている。	はい93.2%(69名) どちらともいえない5.4%(4名) わからない1.4%(1名)	これまで通り、視覚支援や構造化を意識した支援を提供していく。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	毎日の掃除に加え、週1回遊具などの除菌を行っている。	はい100%(74名)	これまで通り、子どもたちの安全面と衛生面に配慮し、心地よい空間づくりを意識していく。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	各職員が、個別支援計画案を作成し、児の現状把握を行う。この案をもとに、児童発達支援管理者と理事長が加筆・修正を加えながら相互に確認している。		これまで通り、具体的な目標を設定し、取り組んでいく。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	年1回、大学教授に療育内容を指導いただいている。		これまで通り、助言をいただきながら、よりよい支援が提供できるように工夫していく。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	研修会の案内は、回覧にて全職員に到達し、興味のある研修会への参加を促している。研修会の内容により、補助を出している。学会発表も奨励している。		個々のスキルアップができるように、さまざまな機会を提供していく。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	各職員が、個別支援計画案を作成し、児の現状把握を行う。この案をもとに、児童発達支援管理者と理事長が加筆・修正を加えながら相互に確認している。	1について はい93.2%(69名) どちらともいえない4.1%(3名) いいえ1.4%(1名) わからない1.4%(1名)	これまで通り、お子さまと保護者のニーズや課題を客観的に分析した計画を作成していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	各職員が、個別支援計画案を作成し、児の現状把握を行う。この案をもとに、児童発達支援管理者と理事長が加筆・修正を加えながら相互に確認している。	3について はい91.9%(68名) どちらともいえない5.4%(4名) わからない2.7%(2名)	これまで通り、お子さまの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた計画を作成していく。
	3 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	各職員が、個別支援計画案を作成し、児の現状把握を行う。この案をもとに、児童発達支援管理者と理事長が加筆・修正を加えながら相互に確認している。		これまで通り、お子さまの状況に応じた具体的な支援内容を作成していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
適切な支援の提供(続き)	4 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	個別支援計画を作成し、支援している	はい95.8%(69名) どちらともいえない1.4%(1名) わからない2.8%(2名)	これまで通り、支援計画に沿った適切な支援を実施していく。
	5 チーム全体での活動プログラムの立案	月ごとに2名の職員で設定活動のプログラムを立案している(児発で2名、放デイで2名の計4名)。次月は、担当が交代する。		全職員で日々の振り返りを行い、よりよい活動プログラムを提供できるように取り組んでいく。
	6 平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	区別をしていないため、同じ支援を実施している。	7について はい89.2%(66名) どちらともいえない4.1%(3名) いいえ1.4%(1名) わからない5.4%(4名)	平日は、学習指導要領の改定に伴い、授業時間数が増加し、下校時間が遅くなるため、療育内容を次年度に向けて検討中である。
	7 活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	担当を変更しながら設定プログラムを立案している。個別の課題は、個々のレベルに合わせて、課題内容を設定し、児童発達支援管理責任者が最終的に決定している。		引き続き、保護者様へお渡しする連絡ノートや個別支援計画で共有化を図り、個々のレベルに合わせて内容を検討し、実施していく。
	8 支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	児発、放デイともに、毎日支援開始前に役割を確認している。		これまで通り、実施していく。
	9 支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	児発、放デイともに、毎日支援終了後に振り返りと気づいた点などの情報の共有化を行っている。月1回の職員会議において、情報の共有化を図っている。		これまで通り、実施していく。
	10 日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日案、個々の記録は滞りなく実施している。		これまで通り、実施していく。
11 定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	6か月ごとに、個別支援計画を作成し、その際にモニタリングを実施している。就学前には、要望のある保護者様には、現状のまとめを作成している。		これまで通り、実施していく。	

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容	
関係機関との連携	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業所のサービス担当者会議への参画	児童発達支援管理責任者または児童発達支援管理責任者が指名した担当者ができる限り参加している。	できる限り参加するようにしているが、職員数が少ないときは参加が難しいときがある。参加することで、点数化されるような仕組みが確立されるとよいと考える。	
	2	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当なし。	該当なし。	
	3	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当なし。	該当なし。	
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	特別に設定してはいないが、担当者会議がある場合には、参加し情報共有をしている。参加できない場合は、相談支援専門員にケースの現状をお伝えしている。	できる限り担当者会議に参加するようにしているが、職員数が少ないときは参加が難しいときがある。参加することで、点数化されるような仕組みが確立されるとよいと考える。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供、	特別に設定してはいないが、担当者会議がある場合には、参加し情報共有をしている。参加できない場合は、相談支援専門員にケースの現状をお伝えしている。	できる限り担当者会議に参加するようにしているが、職員数が少ないときは参加が難しいときがある。参加することで、点数化されるような仕組みが確立されるとよいと考える。	
	6	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	案内のあった研修会については、回覧板で回し、参加を募っている。	個々のスキルアップができるように、さまざまな機会を提供していく。	
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	夏休み期間に年2回、放デイ児童を対象に、おもちゃ作りイベントを企画し、交流の機会を提供している。	はい16.9%(12名) どちらともいえない5.6%(4名) いいえ36.6%(26名) わからない40.8%(29名)	放デイ対象の交流はあるが、児童発達の交流イベントは設けていない。幼稚園に通いながら通所される児が多いため、あえて設定する必要はないと考えている。
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	実施していない。	保護者アンケートの設問における該当項目なし。	今後も、計画の予定はしない方向である。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
保護者への説明・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	見学・面談時および契約時に、その都度丁寧に説明している。	はい95.9%(71名) どちらともいえない1.4%(1名) いいえ1.4%(1名) わからない1.4%(1名)	これまで通り、実施していく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	まずお渡しして書面にて確認していただき、不明な点を詳しく説明するようにしている。	はい78.1%(57名) どちらともいえない9.6%(7名) いいえ8.2%(6名) わからない4.1%(3名)	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った、当日の活動プログラムや個々の取り組みを丁寧に説明していく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	感覚統合の説明は、見学時や送迎時に保護者様にお伝えしているが、保護者様向けプログラムは実施していない。	はい31.1%(23名) どちらともいえない24.3%(18名) いいえ23.0%(17名) わからない21.6%(16名)	保護者様の負担になる可能性もあるため、実施していない。日々の療育内容の質をあげることでお子さまの発達を促すことが望ましいと考えている。相談には常に応じる姿勢を続けていきたい。
	4 子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	連絡ノートを媒介として、職員が今日の様子を記録し、保護者様は、気になることなどを記載いただき、共通理解を図っている。送迎時に保護者様にお子さまの様子を確認している。	はい86.5%(64名) どちらともいえない9.5%(7名) いいえ1.4%(1名) わからない2.7%(2名)	これまで通り、連絡ノートや送迎時にお子さまの様子を確認していく。
	5 保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者様からの連絡ノートの記載や相談があれば、児童発達支援管理責任者を中心として返答している。相談内容により、別途一時間の面談枠を設定し、面談している。	はい41.1%(30名) どちらともいえない19.2%(14名) いいえ24.7%(18名) わからない15.1%(11名)	これまで通り、実施していく。
	6 父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	実施していない。	はい8.1%(6名) どちらともいえない12.2%(9名) いいえ55.4%(41名) わからない24.3%(18名)	うまく機能していない経験のほうが強いいため、あえて実施はしていない。しかしながら、要望はあるため、今後その方法や内容を検討していく。
	7 子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	基本的には、児童発達支援管理責任者が対応している。都度、申し出があれば対応する。	はい50.0%(37名) どちらともいえない2.7%(2名) いいえ2.7%(2名) わからない44.6%(33名)	支援内容に関する苦情はないが、利用回数が少ないという訴えは、特に年度替わりに生じる。そのため、引き続き利用方法について検討していく。
	8 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	お子さまには、視覚的にわかりやすい方法で伝えるように心がけている。保護者様には、連絡ノートや送迎時にお子さまの様子を確認している。	はい83.8%(62名) どちらともいえない6.8%(5名) いいえ2.7%(2名) わからない6.8%(5名)	これまで通り、視覚支援や構造化を意識した伝え方を提供していく。
	9 定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	毎月の予定表を月1回配布している。	はい63.5%(47名) どちらともいえない8.1%(6名) いいえ8.1%(6名) わからない20.3%(15名)	毎月の予定表以外は、特に、発信する情報がある時のみ配信していく方向で考えている。
	10 個人情報の取扱いに対する十分な対応	個人情報の保護や匿名化について、施設内で徹底している。また、個人情報が記載されている書面は、鍵のついた保管庫で厳重に管理している。	はい85.1%(63名) どちらともいえない2.7%(2名) わからない12.2%(9名)	これまで通り、実施していく。

区分	チェック項目	現状評価(実施状況・工夫点等)	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
非常時等の対応	1 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	防犯のため、セコムを導入している。職員内ではすべて周知徹底しているが、保護者への周知は、必要に応じて掲示している。	はい73.0%(54名) どちらともいえない9.5%(7名) いいえ2.7%(2名) わからない14.9%(11名)	玄関入り口近くに掲示する方法で対応していく。玄関には、手指消毒用のアルコール製剤をおき、感染症予防に努めている。
	2 非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	年1回、避難訓練を実施。	はい27.0%(20名) どちらともいえない13.5%(10名) いいえ4.1%(3名) わからない55.4%(41名)	これまで通り、定期的の実施していく。
	3 虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	5月の職員会議で、虐待防止に関する研修を実施している。		複数職員でお子さまに関わっているため、お互いを意識しながら、視覚支援や構造化を意識した支援を提供していく。
	4 やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	該当なし。もし当該児童が利用する際は、児童発達支援管理責任者が保護者様に十分に説明を行い、了承を得る。		該当者が出れば、児童発達支援管理責任者が保護者様に十分に説明を行い、了承を得る。
	5 食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	該当なし。個包装のおやつを提供するために、事前にアレルギーに関しては聴取し、提供するには注意を払っている。また、その対象児の利用時には、他児童と同じアレルギーのないおやつを事前に準備し提供している。		これまで通り、実施していく。
	6 ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	これまでの事例を書面にて蓄積し、保管している。さらに、職員会議でどのように対応すれば起こらないかについて検討し、共通理解を図っている。		これまで通り、実施していく。

保護者用評価表から(満足度)

子どもは通所を楽しみにしているか はい85.1%(63名)、どちらともいえない12.2%(9名)、わからない2.7%(2名)
事業所の支援に満足しているか はい91.9%(68名)、どちらともいえない 8.1%(6名)